

<今回>3432回目 2024年2月195日(月)14時~17時 6021会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p5179、兄弟王朝両者は対等位置 より

<前回>3421回目(24-21-529)出席者69名

資料1)(2-3-1)第3419回(24-11-2929)のまとめ(清水)

資料2)百済人祿氏の墓碑銘(気賀沢、岩田、紀元節の算出(河口清水))

資料3)隅田八幡神社鏡銘(古田、榛葉)

資料4)朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳(高木)

A 報告 本日は寒さ厳しく、大雪が予報され、現に雪が降り続けているため、休会も考えたが、必ずどなたか参加すると思い、休会にしなかった。金曜webは藤田氏が妙心寺の鐘の内部の陽刻の銘文の解説を行った。筑紫の観世音寺の鐘の銘とも一致する。兄弟鐘である。で服部氏が藤原不比等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得性が高い発表であった。私は「多胡碑」に不比等の名前が出てると質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不比等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧な紹介を受けた。「羊」は周囲が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位(第3位)の不比等の名を出したのは、中央政界で最大の実力者と評価されていたのではないかという意味で質問した。入手経緯、時期、徒然草まで引用して深い紹介をした。今は国宝として保管され、妙心寺には模造品がつるされている。音律のもとになっている。

B資料 2)その席上、配布を受けた、「百済祿軍墓碑銘」の解説状況が解説されていたので紹介した。発見当時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。が祿軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀にも名前が出ていて、弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。660年百済が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級將軍として、活躍した。出所是北京の古物商から、拓本として出てきたもの、解説の様子が書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した前回神武の紀元前660年即位説はどこから出たか質問があったが、河口氏の資料が見つかったので報告した。推古9年辛酉、西暦601年から21元遡った辛酉の年とした那珂通世博士の説(讖緯説)を採用した。

朝鮮の軍將が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命されていたのではないかと推定される。封禪の儀の倭国曾長は誰であったか、サチヤマか。決め方について話が弾んだ。また

3)榛葉氏より、隅田八幡神社の順佛画像鏡の解説の原尺量として配布された。左文、読み方などの参考になる。皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。于度今、読書している最中である。

4)高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井について岩戸山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は何故「磐井継体戦争はなかった」論になぜ変更されたか、質問があり、調べることにな東京古田会の編集した「た百問百答」にある事がわかった。が内容は説明できるほど明快ではない。

書式変更: インデント: 最初の行: 4 字

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

C 読書 朝日文庫版:p51096、両者は対等の一9位置行目、なお井上光貞は から

(1) 斯麻と大王・男弟王とは支配と従属関係にはない。隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日十を八月十日の意味に採

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 1 字

た。後代の私達は知っている、斯麻は百済の武寧王のことだ。理由を2名の使者の名前の解明から説き起している。(斯麻は文字が日本書紀と同じと日本古代史学会では日本書紀の評価が高まった事があった。)は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之大中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「秦」である。①字形判定—左右対称に近い。奉か秦の左文か、直後の「遺」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)②対等の論理、従来説は大王・男弟王—天皇、斯麻を配下の人物に当てていた。③「遺」の用例を多数出している。遺(使者)+敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健自氏は念長寿を年長奉と判読して—を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遺の下に来る用例を上げた

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

①開中費直 費直は階級名。欽明紀に百済本紀に曰くとして、加不至費直とある。河内直は安羅日本府の役人として、新羅に内通した人物として悪名高い。

②穢人今州利は穢人(わい人)穢は国名、濊と同じ。高句麗好太王の碑文にも載っている。濊の南は辰韓と北は高句麗、沃沮と接す。東は大海(日本海)に窮まる。(弁辰伝)。国、鉄を出す。韓、濊、倭皆従いてこれを取る。(三国志魏志東夷伝中の濊伝)

③州利も武寧王の遣使の一人だ。例に上げたのは複性の例示、結論を出しながら保留しているのでわかりにくい。古田史論への反発を論理で乗り越えようとしている。

開中費直は 安羅日本府の要人 穢人今州利は 百済国内の官人

④大王と男弟王 イ倭王武の上表文、ロ百済本紀の磐井王朝に対して日本天皇と表記している事、ハ継体の磐井討伐の詔の中に、百済、任那の年貢を横取りしていると非難している事実は、半島と磐井は常に通好している事実を示すものだ。三隋書倭国伝に新羅百済皆倭国を大国珍物多し、として敬仰し、恒に通交している。

⑤百済本紀の示す日本はすべて九州王朝。武寧王が派遣した州利將軍は日本書紀の継体期に出てくる百済本紀に基づいているから、派遣先は九州王朝で、近畿王朝ではない。安羅日本府は九州王朝に属する出先機関である。(日本の名前の起こりは何時からか)

~~2024-2-5(月) 14時から17時 601会議室~~

~~2-19(月) 14時から17時 602会議室~~ 3-11(月) 14時から17時 603会議室

~~3-25(月) 14時から17時 601会議室~~

書式変更: インデント: 左: 6.3 mm